

女性 経営者 に聞く!

暮らしの課題から
価値を生み出す
—あったらいいなをカタチに—

株式会社マザーソリューション 代表取締役

齋藤 祐子 氏



【1】悔しさを原動力に変えた 「ないなら作る」の精神

「ずっと家事と育児しかしてこなかったんでしょ？」
未就学児2人を育てていた私は、再就職の面接で
そう言われました。育児や家庭の事情で一度仕事を
離れると、再び働きたいと願っても思うように道が
開けない。いざそれが現実となった時に私が感じた
のは、悲しさよりも、憤りに似た悔しさでした。「そ
れなら、自分で仕事を作るか」。それが、私の起業
の原点です。

当社では、子どもの安全や育児を助ける商品を中
心に、企画から製造、販売までを一貫して行ってい

ます。商品の多くは色や仕様を選べる受注製作で、
カットから縫製まで全て手作業です。個人事業から



20畳ほどのアットホームなアトリエ



腕を振った周年記念パーティ

数えて7年目の小さな会社ではありますが、BtoCのインターネット販売を通じて、多い月には約6000点のご注文を頂くまでになりました。

洋裁を始めたのは、上の子を妊娠していた頃でした。自分好みのベビーグッズを見つけられなかった私は、その時も「ないなら作ってしまおう」という発想でものづくりを始めました。育児の困りごとを解決するアイテムを作り SNS に掲載していると、「欲しい」という声を多く頂くようになり、ハンドメイドサイトで販売を始めたのが現在の仕事へとつながっていきました。

【2】趣味から仕事へ、そして事業へ

ハンドメイド作家時代、素晴らしい作品を作っているながら、利益がほとんど出ないような価格で販売する作家さんを多く目にしました。しかし、仕事として継続させていくためには、作品を価値ある商品に変え、お客様に選ばれ、きちんと利益を生み出さなければいけません。そのためには、明確なコンセプトと差別化が必要だと感じました。

当社のペルソナは、私自身です。「少し高くても、本当に自分のニーズを満たせるアイテムを、自分のために作ってもらえる」。そんなショップを目指して試行錯誤を続けてきました。

製造業でありながら、当社の作業場はわずか20畳ほど。受注製作の仕組みにより、保有するのはわずかな材料のみです。60種類以上ある商品の多くを共通の材料から作れるよう設計し、在庫や廃棄のロスを抑える工夫をしています。

一方で、カスタムオーダーによってお客様の個別



一点一点心を込めて手作り



楽天市場 ショップページ



チャイルドシートからの抜け出し防止アイテム



水筒の事故から子供を守るアイテム

需要に丁寧に応えることで、付加価値を高めています。その結果、年平均40%を超える成長を続け、楽天市場では、顧客満足度の高さが全店舗の上位1%に入るなど、多くのお客様から温かい評価を頂けるようになりました。

【3】 不安を安心と満足に変える「スピード」と「共創」に込めた想い

ひらめきから商品化まで最速1日というスピード感も、小規模ならではの当社の特徴です。

例えば昨年夏、「水筒を斜めがけして転倒し、内臓を損傷する事故が増えている」というニュースが話題となりました。そこでランドセルに水筒を固定できるアイテムを考案し、翌日発売したところ、不安を抱えていた保護者の方々から「こんな物が欲しかった」と多くの反響を頂きました。

まずはスピード感を持って世に出し、お客様の声を受け幾度となく改良を続けながら、お客様と共に育てていく。「あったらいいな」は人の数だけ存在するからこそ、そのプロセスを繰り返すことで、商品は真に選ばれるアイテムとなり、口コミを通じて広がっていくのだと実感しています。

自分ごととして捉え、互いを補完し合いながら最大限の力を発揮しようと努力してくれている姿勢こそが、事業の成長を支える大きな原動力となっています。

これまでの経歴や特技を活かし生き生きと働く彼女たちの姿は、氷山の一角に過ぎないのかもしれませんが。就業の機会と、能力を発揮できる環境さえ整えば、計り知れない力を発揮する女性は、この福島という地域にまだまだ眠っているはずです。

働ける時間の短さは、人を増やすことでカバーできます。急な欠勤を「当然あるもの」という前提で仕組みを整えれば、大きな問題にはなりません。そして時間が経てば、彼女たちの制約も少しずつ減り、やがては事業を支える中核的な存在へと成長していくと信じています。

子育ての中の「困った」から始まった、ものづくりと会社づくり。誰かの暮らしを少しでも助け、人生を豊かにできる存在になれるようお願いながら、これからも私は大切な仲間たちと共に、福島から新しい価値と楽しい未来を切り拓いていきたいと考えています。



経済産業省のピッチイベントにて

【4】地域の潜在能力を信じ、共に歩む組織の在り方

こうした活動を通じて生み出された利益は、育児や介護をしている女性たちの雇用へと繋がっています。現在では社員・パート合わせて9名となり、活気あふれる組織になりました。

働き方の制約を抱える女性ばかりの組織運営は、一見すると困難に思われるかもしれませんが。しかし、社内の雰囲気は驚くほど良好で、常に暖かな空気と思いやりの言葉で溢れています。全員が「制約」を



開発した商品たちと



スタッフたちと